

「2024年度インドネシア大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学研究科修士課程2年 坂本 孟

私は、インドネシア語の実践的な活用と、現地の文化や歴史への理解を深めることを目標に今回の留学に参加した。

まず、学習成果については、日本であまり取り組めていなかった会話表現やリスニング練習などを行い、インドネシア語の総合力を向上させることができたと感じる。特に授業で何度か行われた、学生にインタビューする授業や道を尋ねる授業では、これまで学習してきたことを実際に活用してみることができ、より実践的な語学能力を身につけられたと感じる。また、学習を進めていく中で、インドネシア語はかつて現地を支配したオランダ語の影響よりも、英語の影響を強く受けていることを知り、言語の成り立ちからもインドネシアの歴史を知ることができた。以上の成果に加えて反省点としては、授業後半にかけて新出単語が多くなり、すべてを覚えることができなかった点である。今後も学習を継続していく中でより多くの単語を覚えて使えるように努力していきたい。

次に、授業以外の活動では、大学以外のショッピングモールを訪れることや、首都のジャカルタを観光することを通じて、文化や歴史についての理解を深められた。ジャカルタ観光では、植民地時代の影響と独立から現在に至るまでの発展の過程を理解することができた。特に、インドネシアは多様な民族によって構成されているため、どの博物館においても各民族の紹介や解説が加えられており、民族統合の過程や苦勞を知ることができた。また、博物館の展示や解説を読むことを通じて、インドネシアの人々がどのように自国の歴史を捉えているのかについても知ることができ、多様な視点から歴史を捉えることの重要性を再認識することができたと感じる。

文化面については、現地の学生と交流する中で多くのことを学ぶことができた。例えば、インドネシアで信仰されている最大の宗教としてイスラム教があるが、学生によって信仰に対する考え方が異なっており、礼拝の頻度やヒジャブの有無など人それぞれであった印象を受けた。また、スーパーには日本語で書かれた商品が多くあり、日本文化が現地で受け入れられていることを知った。特に、日本の漫画やアニメなどはインドネシア語に翻訳されており、それらが日本を知るきっかけの一つになっていると感じた。

今回の留学を通じて、よりインドネシアに対する興味関心が深まった。インドネシアは今後さらに発展することが予想されるが、数年後再び現地を訪れてどのように社会が変化したかを見るのも面白いと感じた。